

→ 小児がんの子どもたちを救おうと 全国から医療の専門家が結集しました



©かとうゆーこ

第 24 号
発行日 2022 年 11 月 18 日
NPO 法人
日本小児がん研究グループ
JCCG 発行

GGSC2022レポート
第1弾

全国38か所！
～ 金色の光に思いをのせて ～
ゴールドセプテMBERキャンペーン 2022



JCCGは、ゴールドのライトアップで小児がんへの理解・支援を呼びかける世界的な啓発イベント「ゴールドセプテMBERキャンペーン」(Global Gold September Campaign:GGSC)を、昨年に引き続き開催しました。北海道から鹿児島まで全国38か所の名所にゴールドライトが灯り、各地では点灯式や啓発イベントも行われました。

今年は初の試みとして9月9日にライトアップされた各地を中継し、その様子をオンライン配信しました。中継を担った名古屋でのメインイベント、各地のライトアップやイベントの様子を本号と次号の2回に分けて紹介します。



千葉ポートタワー

「10、9、8、7、
6、5、4、3、2、1
(どきどき…)
点灯！」

点灯のカウントダウン
には、子どもたちや
ご家族も参加！



広島城



GGSC応援キャラクター



イラストレーター326(ナカムラミツル)さんによる新しい仲間、ボンちゃんキャンペーンの応援団に加わってくれました♪

©326



第 24 号のコンテンツ

◆ゴールドセプテMBERキャンペーン 2022 (第 1 弾)

- ①点灯カウントダウンと GGSC 応援キャラクター
- ②メインイベント (名古屋)



©326

- ③全国 38 か所のライトアップ～それぞれの思い～
- ④ご協力へのお礼

◆ご寄付のお願い





名古屋から発信

9月9日

GGSC2022メインイベント

「小児がんの薬」トークセッション
& 各地のライトアップを中継！



中部電力 MIRAI TOWER から配信されたオンラインイベント
(上段左から大竹由美子さん、つボイノリオさん、松本公一医師、
下段左から寺内恵美子さん、小川千登世医師)



中部電力 MIRAI TOWER

トークセッション ～みんなで考え、みんなで治す～

今年のキャンペーンメインイベントは、名古屋からオンライン配信しました。中部電力MIRAI TOWERの点灯でスタート！ぷくぷくばるーん理事の大竹由美子さん、ラジオパーソナリティーのつボイノリオさんが進行役を務めてくださいました。

トークセッションでは、小児がんの薬について、患者の立場から寺内恵美子さん、医師の立場から小川千登世医師（国立がん研究センター中央病院・JCCG 早期相試験推進委員会副委員長）が、どんな課題があるのかを説明しました。

このコーナーは、「どうすれば使いたい薬を日本でスムーズに使えるようになるのかを、皆で考え、一緒に声を上げていきましょう」としめくられました。

ドラッグラグってなに？

海外で使用されている薬が、国内で承認されて使用できるまでの時間差



代表的な小児がんドラッグラグ

✓ ベグアスバラギナーゼ（急性リンパ性白血病のための薬）
米国承認1994年 日本では2022年6月30日にベグアスバルガーゼが承認申請、
現在まだ未承認だが・・・ラグ28年 来年に期待??

✓ イソトレチノイン（神経芽腫のための薬）
米国も未承認（薬事承認はニキビに対してのみ）しかし、
1990年代から標準薬として使用可 日本は現在も未承認・・・ラグ30年??

実際には海外で承認・使用されている薬が、国内ではずっと使用できず、
ラグが延び続けている薬も・・・

小川 千登世医師によるスライドの一部

特定非営利活動法人

ぷくぷくばるーん



メインイベントは、愛知県の患者支援団体「ぷくぷくばるーん」さんが全面協力してくださいました。入院している子どもたちや付き添うご家族に、バルーンアートなどを通して「笑顔」と「楽しい刺激」を届ける活動をしている特定非営利活動法人です。

全国ライトアップ中継 ～子どもたちやご家族を元気づける光に～

ゴールドセプテンバーキャンペーン初の試みとして、この日にライトアップされた各地から22施設を中継しました。福岡市から博多ポートタワーと赤煉瓦文化館を担当した九州大学病院の加藤稚子医師は、「今こうしている間も、つらい治療をがんばっていたり、合併症と闘ったりしている子どもたちやご家族を、少しでも元気づける光になれば」と話しました。

中継担当者やつボイさんが、「名古屋のMIRAI TOWERはテレビ塔の中で最も古いんですよ」「東寺はさすが世界遺産ですね」「『うみとそらのおうち』は子どもたちがくつろげるように天井が真っ白ではなく、青空が見えたり、星座がちりばめられていたり工夫されています」など各建物をアピールし、「お国自慢」の様相も呈しました。

どのライトアップも「この輝きが子どもたちやご家族に届くように」との思いは同じで、全国の連帯感が生まれました。

全国中継

～各地のゴールド、各地の思い～

患者さんも、ボランティアメンバーも、医療従事者も、みんなで参加



①天保山大観覧車、②博多ポートタワー、③東寺、④東北電力ビル新潟 無線鉄塔、⑤仙台スカイキャンドル、⑥千葉ポートタワー、⑦福岡市赤煉瓦文化館、⑧松江城、⑨小倉城、⑩広島城、⑪出雲大社、⑫愛媛県庁、⑬松山城、⑭横浜こどもホスピス～うみとそらのおうち、⑮神奈川県庁、⑯横浜マリンタワー、⑰横浜市庁舎、⑱横浜コスモワールド大観覧車「コスモクロック21」、⑲中部電力 MIRAI TOWER、⑳オアシス21「水の宇宙船」、㉑東京スカイツリー



～さまざまな応援メッセージ～



イベントのラストでは、小児がん治療支援チャリティーライブテーマソング「My Hero～奇跡の唄」（坂本龍一作曲、つくも作詞）をBGMに、皆様からの応援メッセージを紹介しました。メッセージへのたくさんのご協力をありがとうございました。

イベントアーカイブ動画はこちら





全国38か所のライトアップ！！

小児病院がライトアップ初参加！ 患者さん交流の場にも

北海道



9月9日 さっぽろテレビ塔

協力：北海道大学病院、公益財団法人
がんの子どもを守る会北海道支部

青森



9月24～25日 弘前城

協力：弘前大学医学部附属病院

◆弘前大学ホームページによる弘前城ライトアップ記事は、「大学プレスセンター」（国内大学がプレスできるシステム）ホームページのアクセスランキングで、1位を取得しました！

千葉



9月9～15日 千葉ポートタワー

協賛：認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ

◆ミルフィーユ小児がんフロンティアーズは、千葉県こども病院で患者さんやご家族が一息つける「いづく亭」を開くなど普段から交流を大切にしていました。コロナ禍で病棟での活動が制限されてしまいましたが、今回のライトアップで久しぶりに集うことができました。

♥ミルフィーユ～：中島弥生理事長より一言「点灯の瞬間には歓声が上がリ、万歳をするお子さんもおられました。

同じ光を見て互いを思いやったり、自然と悩みを打ち明け合う機会となったり、最高の交流の場となりました。千葉市の大木正人副市長も駆けつけて今後の応援を約束してくださり、全国ライトアップ中継の配信をみんなでいっしょに見られるようにと、メンバーがプロジェクタースクリーンを用意してくれて、多くの方々の温かい気持ちを実感する素晴らしいひと時となりました」

宮城



9月5～11日 仙台スカイキャンドル

協力：株式会社仙台放送、
宮城県立こども病院

埼玉



9月12日

さいたまスーパーアリーナ

協力：埼玉県立小児医療センター



◆病院入口のカリオン（組み鐘）もライトアップ！



9月20～27日

東京都立小児総合医療センター

◆同病院は全国に15ある国が定める「小児がん拠点病院」のひとつです。1階エントランスがあたりかみのあるゴールドに照らされました。

東京



神奈川県は計12か所がゴールドに 地域の方々と共に見つめる



9月9日 横浜こどもホスピス うみとそらのおうち

協賛：FAHOME Sound&Lights

協力：一般社団法人旭くん光のプロジェクト

◆うみとそらのおうちは、命にかかわることもある病気の子どもたちが安心して楽しく過ごせる施設として2021年11月に開所しました。見学会や地域イベントも行い、地域との交流を大切にしています。



♥うみとそらのおうち：田川尚登代表理事より一言「当日は帰宅途中の大学生や高校生、地元の方々が足を止め、近くの子どもたち『何をやっているの?』と集まってきてくれました。金色に灯る瞬間は、お子さんからも大人からも『わあ〜』と歓声が上がりました。建物がゴールドに照らされてくっきりと存在感を増しつつも、まわりの風景に溶け込んでいる様子を見て、地域のシンボリックな存在となれるよう今後もまわりの方々と力を合わせていきたいと思いました。

これまでの施設の利用者は、約35家族、のべ350人ほどで、そのおよそ半分が小児がんのお子さんです。ライトアップの意味を知っていただけるような活動も工夫していけたらと考えています。」



「忘れない」仲間への思いも乗せて ～湘南ベルマーレ～



9月2～4日 江の島シーキャンドル

協力：江ノ島電鉄株式会社



9月2～4日 小田原城

協力：小田原市



9月26～30日 平塚駅南口広場人魚噴水公園

協力：平塚市



9月7～13日 松田山八
ブ館 協力：松田町



◆湘南ベルマーレは、9月3日の川崎フロンターレ戦を「ヒサと共に。2022」のメインデーとし、小学生対象のチャリティーサッカー教室などを開催しました。

この日来場者に配布されたマッチデープログラム（情報誌）の裏面は、ゴールドの特別仕様に。選手入場時にサポーターがプログラムを掲げ、スタジアムが金色に染まりました。

◆この4か所のライトアップは、湘南ベルマーレフットサルクラブのプレイヤーで、自身もがんと闘病をしながら小児がんの患者さんやご家族をサポートする「フットサルリボン」活動を続けていた久光重貴選手（2020年12月に39歳で逝去）の思いを継ぐイベント「ヒサと共に。2022」の一環として実現しました。



久光 重貴選手

♥湘南ベルマーレ「ヒサと共に。2022」担当：渋谷剛さんより一言

「ライトアップについて『なぜこの時期に光っているのか、まずはひとりでも多くの人に気づいてほしい』などのコメントをいただきました。また、今年是对戦相手の川崎フロンターレの選手がイベントを手伝ってくれたり、サポーターの皆さんからも大きな反響があったりしました。チームの垣根を超えたやりとりに、『改めて久光選手の存在の大きさを実感しますね』との声もいただきました。

小児がんと闘う子どもたち、ご家族に「元気・勇気・笑顔」を届け続けた久光選手の思いを大切に、これからもクラブや競技の枠を超えて協力したり、関わったりしてくださる方が増えるように活動していきたいです。」

※ライトアップとスタジアムの写真：湘南ベルマーレ提供



神奈川県&横浜市全面協力 きっかけは中学生からの依頼



9月7~9日 神奈川県庁舎

◆今年のゴールドライトアップ38か所のうち、12か所が神奈川県内です。

神奈川県が横浜市と連携、県庁舎と市庁舎のライトアップを決定し、さらに各所にライトアップ協力を呼びかけたことで、みなとみらい地区を中心に点灯施設が広がりました。

県の担当者の心を動かしたのは、昨年横浜市の中学生からかかってきた問い合わせの電話でした。

県に連絡をしたのは栄島四郎君（中学3年）です。3歳の時に脳腫瘍が見つかり、入院・

手術を経験しました。回復した今も定期的に受診し、投薬を受けています。小児がんの治療は体に負担が大きく退院しても心配が続くこと、同じ脳腫瘍で治らなかった友人がいることなどをたくさんの人に知ってもらい、みんなが元気になれることを願って、レモネードスタンド活動や絵本作りなどの啓発活動を行っています。

昨年は神奈川県でのゴールドライトアップはありませんでした。そこで四郎君は県のがん・疾病対策課に「神奈川県でもゴールドにライトアップし、小児がんの子どもたちを応援してくれませんか」とお願いしました。担当者は、ゴールドのライトアップを患者さんご自身が望んでいることを実感し、全面協力を決めました。



神奈川県が作成した啓発チラシ。四郎君がイラスト協力。



9月7~9日 マリントワー



9月7~9日 横浜市庁舎



9月7~9日 象の鼻パーク



9月7~9日 横浜コスモワールド大観覧車「コスモクロック21」



9月7~9日 横浜ハンマーヘッド



9月7~9日 アニヴェルセル みなとみらい横浜



神奈川県に届いた子どもたちやご家族からのお礼の絵と手紙



神奈川県庁舎前で仲間とジャンプする四郎君（中央）
（みんなのレモネードの会提供）

♥四郎君のお母様・栄島佳子さんより一言

「当日は神奈川県庁のライトアップ中継に参加した後、みなとみらい地区を歩き、マリントワーに上りました。金色に照らされた風景を一望すると本当に美しく、子どもたちにも大きな感動や勇気がわいたようでした。

いっしょに中継に参加した皆さんも『神奈川県でこんなにたくさんライトアップしてもらえるのは嬉しい』『応援の意味合いの光だと思うと本当に元気が出る』と喜んでおられました。

行政が全面協力してくださるのはとても心強く、こういった試みが全国に広がっていけば素敵だな、と思っています。」

子どもたちを励ます光に… さまざまなご協力



新潟



9月9～14日
東北電力ビル新潟
無線鉄塔
協力：東北電力、
ハートリンク共済、
新潟大学医歯学総
合病院、新潟県立が
んセンター新潟病院

協賛：円銘建設(株)、ほその小児科、ひだか
こどもクリニック、ひふみコーチ(株)、三品雅義税
理士事務所、(有)坪井令夫商店、株式会社
カーク
協力：名古屋テレビ塔株式会社、栄公園振
興株式会社、つポイリオ、株式会社ハートウ
ィング、(社)ラン・フォー・ピース普及協会

◆GGSC2022メインイベント会場！

9月9～15日
中部電力
MIRAI TOWER
9月9日
オアシス21 水の宇宙船
メインイベント主催：NPO
法人ぷくぷくぼーん

愛知



ぷくぷくぼーんのみなさん

京都



9月9日 東寺(教王護国寺)

協賛：一般財団法人 京都仏教会
協力：京都府立医科大学附属病院
◆京都仏教会の働きかけと東寺のご協力により
境内では小児がん啓発チラシが配布されました。

大阪



9月3日 大阪城

↑準備の様子



9月1日 一心寺シアター

大阪のライトアップ

協力：NPO法人ホスピタルフットボール協会、大阪
市立総合医療センター

♥NPO法人ホスピタルフットボール協会
尾関泰輔さんより一言

「今回、大阪で運営の受け皿となったのは、小児病棟ボランティアと地域の子ども支援ボランティアです。病気の子どもを支援する人たちだけでなく、不登校、ネグレクト、貧困などの課題を持つ子どもたちを支援する人たちが一緒になって活動してくれました。『子どもが持つ課題は、種類が異なっても同じだから』という気持ちで集まってくれました。来年も地道に人の輪を広げることのできる活動を継続して行きたいと考えています。」



9月9日
天保山大観覧車

広島



9月9～15日 広島城

協賛：株式会社 村上農園
協力：広島県、広島市、広島大学病院

◆昨年は病棟との中継で行った点灯式を、今年は現地開催。通院している子どもたちや、治療を終えた子どもたちも参加してくれました。複数の報道陣も見守る中、広島城が金色に照らされると、子どもたちから「わぁ」「きれい！」と喜びの声があがりました。





建築デザイン学科とのコラボレーション

島根



9月9～11日 松江城

島根のライトアップ

協力：島根県、松江市、
島根大学総合理工学部建築デザイン学科、
島根大学医学部附属病院

◆普段から小児病棟の壁面デザインなどで病院と協力体制を築いている建築デザイン学科の学生さんと院生さんが、啓発用ののぼりや、当日おそろいで着用したTシャツのデザインを手がけてくれました。



オリジナルデザインのTシャツ&のぼり



建築デザイン学科メンバーが啓発にも全面協力

♥建築デザイン学科：細田智久教授より一言「建築を学ぶ学生らにとって、建物がゴールドにライトアップされることで子どもたちの応援や健康につながるというのは新しい学びでした。皆キャンペーンの意義を理解し、熱心に活動をしてくださいました。Tシャツやのぼりは、関心を集めたり連帯感を高めたりしてくれるため、今後も我々ができる協力をしていければと考えています。」

島根大学

♥医学部附属病院チャイルド・ライフ・スペシャリスト：黒崎あかねさんより一言「松江城では観光客の方から『一段ときれいですね』とお声がけをいただき、学生メンバーとの交流が生まれたそうです。出雲大社には治療中の患者さんやご家族も見に来ていただきました。神々しく輝く本殿にも、それを『きれい！』と見つめる子どもたちの生き生きとした表情にも感動しました。『外ではこんな顔もするんだな』と思い、病院以外でのイベント・交流の場がある意義も実感しました。」



9月9日 出雲大社



小児がんのことを詳しく知ってもらう取り組みも

愛媛



9月7～13日 愛媛県庁

愛媛のライトアップ・市民講座

協力：愛媛県、松山市、がんの子どもを守る会愛媛支部、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会、NPO法人ラ・ファミリエ、愛媛大学医学部附属病院、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院

◆愛媛県では、ライトアップに伴う啓発イベント「スマイルアクション」として、市民公開講座を開催しました。県内3つの病院の医師らと患者支援団体のメンバーが小児がんの治療や患者さん・ご家族のサポートについて説明し、約40人が聞き入りました。



9月9～10日 松山城

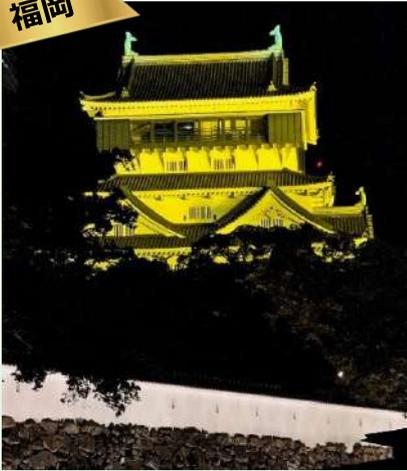


いよてつ高島屋キャッスルルーム

小児がんのことを知ってもらう取り組み ほかにも



福岡



「レモネードスタンドin北九州」の様子

9月9~11日 小倉城

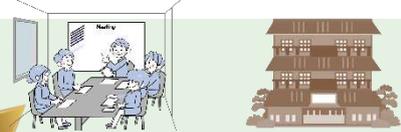
協力：福岡県、北九州市、認定NPO法人 にこスマ九州、久留米大学病院
 助成：樋口宗孝がん研究基金(レモネードスタンド開催について)

◆にこスマ九州は「スマイルアクション」として「レモネードスタンドin北九州」を実施しました。「広げよう笑顔の輪」を合言葉にした小児がん経験者の支援活動を紹介し、小児がん経験者やご家族といっしょにレモネードスタンドを開催しました。昨年に続き、にこスマ九州メンバーが手作業でライトに金色のフィルムを装着。ひとつひとつ心のこもったライトは、小倉城を美しく照らしました。



福岡県のライトアップは次ページでも紹介します!

ビジネススクール⇒旅館とつながって



鹿児島



高知



9月24日 高知城

協力：高知県、城西館（旅館）、早稲田大学ビジネススクール（早稲田大学経営管理研究科）、特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン（CNJ）

◆キャンサーネットジャパンと共同で小児がん啓発をテーマに教育と社会課題の解決を推進している早稲田大学ビジネススクールが、高知県にライトアップを依頼。高知城のライトアップサポートをしている旅館・城西館のご協力も得てライトアップが実現しました。

9月1、30日

鹿児島中央駅前観覧車「アミュラン」

協力：かごしま難病小児慢性特定疾患を支援する会、株式会社JR鹿児島シティ、鹿児島大学病院

◆ハートピアかごしま（鹿児島市）にて、鹿児島大学病院医師による講話、患者さんの交流会が開催されました。



文化活動や健康づくり…市民向けの施設もゴールドに



9月9～11日 博多ポートタワー

福岡

協力：福岡県、
福岡市、
九州大学病院



東京駅と同じ建
築家による設計



9月9～30日 福岡市赤煉瓦文化館
(市民が交流できるカフェスペースや、文化活動を行える会議室が設置されています)



長崎

9月9～11日
稲佐山山頂電波塔

協力：長崎市、
公益財団法人 がんの
子どもを守る会九州西
支部



佐賀

9月9日 佐賀メディカルセンタービル (佐賀県健診・検査センター)

協力：公益財団法人 佐賀県健康づくり財団、公益財団法人 がんの
子どもを守る会九州西支部

今年も光った！東京スカイツリー®

「小児がんの子どもたちやご家族に思いをはせたい」



東京

◆お子さんを脳腫瘍で亡くされたお母様からJCCGに届いた「東京でのライトアップがあれば、家族で見て、小児がんの子どもたちやそのご家族に思いをはせたり、友人に周知したりしたいです」とのメッセージと、そのお気持ちを叶えようと動いてくださった326 (ナカムラミツル) さんのおかげで今年も東京スカイツリーのライトアップが決まりました。

9月9日 東京スカイツリー

協力：326(ナカムラミツル)様、東武タワースカイツリー株式会社

♥東京スカイツリーのゴールドは、「360度どこから見てもあたたかい金色に見えるように」とデザインされた特別な光です。「ぬくもりのある美しさに感動した」といった声が多く寄せられました。9月9日、金色に輝くスカイツリーの後方には月が見えたり、隠れたりしていました。「ライティングを見上げたことをきっかけに、お月様の美しさにも気づき、以来空を見上げることが増えました。自然と気持ちも上向きになれています」といった感想も届きました。



右から市村幸一医師 (順天堂大学)、
326 (ナカムラミツル) さん、メッセージ
を寄せてくださった山中さんご家族

ご協力をありがとうございました！

Smile Action

スマイルアクションメンバー



スマイルアクションとは…

ゴールドセブンバーキャンペーンの趣旨に賛同し、各地で開催される小児がんの啓発イベント

協賛：一般財団法人京都仏教会、株式会社村上農園、326(ナカムラミツル)様、ARIS HEART(山川亜梨沙)様、FAHOME Sound&Lights、明治安田生命保険相互会社、認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ

協力団体：公益財団法人がんの子どもを守る会、認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク、一般社団法人Empower Children、一般社団法人レモネードスタンド普及協会、株式会社毎日新聞社、アフラック生命保険株式会社、認定NPO法人がんネットワークジャパン (CNJ)、一般社団法人旭くん光のプロジェクト、湘南ベルマーレ、ガンバ大阪、フィデリティ投信株式会社、認定NPO法人にこすま九州、認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ、NPO法人ホスピタルフットボール協会、NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会、NPO法人ラ・ファミリエ、一般社団法人子どもと家族のQOL研究センター、ハートリンク共済

ライトアップ協力：株式会社さっぽろテレビ塔、株式会社仙台放送、東北電力グループにいがた、さいたまスーパーアリーナ、千葉ポートタワー、神奈川県、横浜市、リストプロパティーズ株式会社、泉陽興業株式会社、新港ふ頭客船ターミナル会社、アニヴェルセル株式会社、認定NPO法人横浜こどもホスピス うみとそらのおうち、中部電力 MIRAI TOWER、オアシス21、東寺(教王護国寺)、大阪市、一心寺文化事業財団、広島市、松山市、愛媛県、北九州市、福岡市、公益財団法人佐賀県健康づくり財団、長崎市、株式会社JR鹿児島シティ、東武タワースカイツリー株式会社、小田原市、平塚市、松田町、江ノ島電鉄株式会社、島根県、松江市、出雲市、島根大学

後援：愛知県、名古屋市、中日新聞、中日新聞社会事業団、広島県、広島市、愛媛県、松山市、大阪市、神奈川県、横浜市、福岡県、北九州市



ゴールドセブンバーキャンペーンは昨年はじまったばかりのキャンペーンですが、多くのご協力をいただき、さまざまな啓発イベントを開催できました。ありがとうございました。今回紹介しきれなかった催しは、次号で紹介予定です。

ご寄付のお願い



小児がんの子どもたちのサポートにご協力ください

1 カ月あたり 1000 円、年間 12000 円のご寄付で、
がんの子ども 1 人の治療支援が可能になります。

「**未来の新治療開発**」(バイオバンクへの細胞保存)、「**正確な診断**」(中央診断システムの維持)、「**大人になるまで見届け**」(長期フォローアップ手帳の確実な配布と運用)。そのため、小児がんの患者さん 1 人に年間約 12000 円が必要です。

JCCG は、毎年新たに発症する 2500 人の子どもの命を守ろうと努力しています。

一人でも多くの子どもたちに、「治った！」という明るい未来をプレゼントするために、どうかご協力をお願い申し上げます。



ご寄付はこちらへお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行 郵便振り込み
口座記号 00850-5 口座番号 153506
加入者名 NPO JCCG

JCCG HP より、クレジットカード寄付も可能です

JCCG ホームページ

インターネットでのご寄付

クレジットカードで寄付



JCCG 事務局

〒460-0003 名古屋市中区錦 3 丁目 6 番 35 号 WAKITA ビル 8 階

TEL : 052-734-2182 FAX : 052-734-2183 E-mail : friend@jccg.jp

Special Thanks!

イラスト：かーとーゆーこ (<http://katoyuko.sakura.ne.jp/>) コピーライティング：石黒 佐和子
JCCG 自動販売機デザイン：有限会社 Sadatomo Kawamura Design

JCCG ニュースレターは、ご寄付をいただいた皆様や以下の支援団体様のご協力のおかげで発行されております

